若宮として備号して当国を巡廻をし此為任
送使若忠利中八幡平の許となり太平記
評判十五之巻勇見勢至坂本條下傳曰
平忠利とあり同小濱水車の傳曰平忠出
より建武元年の末まで勇見の西国源中
納言服部の先陣書曰将服部の先陣
忠利卿八幡宗七る金錢お熱りにて至まで
戦ひけるに幡宗よりけ散されぬ二陣よつてき
よる子孫七郎なる金錢入道して戦けると
なく尊氏に属しける桃井右京と書録ヶ
西国にて合戦此条下に見へたり書曰お将ハ
服部氏の舎弟なり又讀太平記二十九巻
見闘の条下に云工藤理左衛門政家軍勢を
從是し内にて忠利とあり又羽源記十之巻
谷地原所合戦并会津武者討死の条下に
も忠利十郎と又同十六之巻にて忠利十郎
忠勝とあり

一 八幡宮
平氏にあり代々服部家の社なり社家
二人社僧一ヶ（真言宗安楽寺）修験一人祭正月元日